

公的債務：インフレーションに賭けるメランション

ギョーム・ポワン（『ル・フィガロ』2017年4月10日）

翻訳：輝野洪瑞（2018年3月29日）

フランスの急進左派政党「不服従のフランスⁱ」の候補者ジャン＝リュック・メランションは、EU加盟国が「新しい空気を吸うことができる」ようにするため、ヨーロッパ中央銀行がソブリン債ⁱⁱをすべて買い取ることを願っている。それも、インフレーションを起こす覚悟で……。

土曜日の夜、ジャン＝リュック・メランションは「フランス2」の番組『オン・ネ・パ・クーシェ』ⁱⁱⁱに招かれ、公的債務の再交渉という、彼にとって重要なテーマに触れた。2016年、フランスの公的債務は国内総生産の96%に相当する2兆1千470億ユーロに達した。この「不服従のフランス」の大統領候補は、もし大統領選挙に勝ったら、「我々の国は新しい空気を吸うことができる」ために、ヨーロッパ中央銀行によるソブリン債の買い取りに向けた欧州連合基本条約（Les traites européens）の再交渉を望んでいる。

数日前、彼の経済顧問ジャック・ジェネルーは、『リベラシオン』紙の記事の中で、「公的債務を直接ファイナンスできるように」ヨーロッパ中央銀行の改革を呼びかけていた。

彼は「もしヨーロッパ中央銀行が国債を買い取るなら、永久債としてバランスシートに記録され、EU加盟国すべてが解放されます（…）そうならば、負債は帳消しになります」と、土曜日の夜にジャン＝リュック・メランションに説明した。そして次のように述べた。

「誰も支払い不能な負債を取り除く方法はそんなに多くはありません。インフレーション、戦争、返済です。このうち返済はとても無理です。残るは戦争とインフレーションです。さて、他ならぬ私としては、私たち全員の生存のためにもインフレーションの方を好みます」。

ジャン＝リュック・メランションは、ヨーロッパ中央銀行による負債の買い取りによって、およそ4～5パーセントのインフレーションに至らせたいと考えている。「不服従のフランス」の指導者は、ヨーロッパ大陸での全面戦争の脅威を煽ることをためらわずに力説した。「この政治はもはや耐えられません。もし私たちがこれをなんとか続けるなら、EUは崩壊し、解体する中で戦争が起きるでしょう」と彼は語った。

自由主義的な立場のエコノミスト、ニコラス・ブーズーは、ジャン＝リュック・メランションの立場について、とても懐疑的な姿勢を示している。「ヨーロッパ中央銀行はすでに国債を買い取っています。これ以上進めてはなりません」と述べ、次のように続けた。

「もしヨーロッパ中央銀行はすべてのEU加盟国の国債を買い取るなら、法令を変更しなければならないでしょう。今の時点では法的には不可能です」。

このエコノミストは、やはりハイパーインフレ（極度に急速な物価の上昇）が、低所

得者の購買力に衝撃を与えることを恐れている。彼は、ソブリン債全部の買い戻しが（ジャン＝リュック・メランションの見積もりのような）4～5パーセントを大きく上回る、大幅なインフレーションとして表れるだろうと見積もる。ブーズーは、ギリシアの事例のように、何カ国かの債務の一部のデフォルト計画（つまり部分的な債務の帳消し）になお好意的であることを示す。

インフレーション：ジャン＝リュック・メランションにより数年来擁護してきた見解

ジャン＝リュック・メランションが公的債務に立ち向かうためにインフレーションを強く勧めるのは、今回が初めてではない。2014年11月に入ってから、ラジオ局「フランス・アンテル」で同様の話をしていた。

「ヨーロッパは滅びるでしょう。そして、EU加盟国すべてを廃墟と化すこの政治が続くことで争いに突入するかもしれません。ヨーロッパ中央銀行は、EU加盟国すべてのソブリン債すべてを買い入れなければなりません」と述べた。そして次のようなエスプリの利いた衝撃的な言い回しを付け加えた。

「債務など何でもありません。私たちは無意味に犠牲を払っているのです。金輪際、債務など返さなくてよいです」。

当時、「不服従のフランス」の候補者は5～6パーセントのインフレーションを主張していた。

「一方では債務の資産価値の軽減を可能にするでしょう。そして、EU加盟国すべてが再出発する前の息吹の回復を可能にするでしょう」。

ジャン＝リュック・メランションは2013年4月、「フランス2」の番組『発言と行動』の中でエコノミスト、ジャック・アタリに向かってまさにかねてからの自身の立場を防衛していた。

だが、その解決策を実行するには、欧州連合基本条約を再交渉しなければならないだろう。ジャン＝リュック・メランションは、そのことがキャンペーンの重要な基本方針のひとつであることを知っている。

「大統領の交代後ただちに条約をめぐる議論をしなければならないでしょう。これは緊急できわめて重要です」と数日前に説明していた。そして「私たちを抑え付けている現在の条約の下では生き続けられません」と付け加えた。

ジャン＝リュック・メランションは、経済的な悩みの種がまさにインフレーションであるドイツを特に説得しなければならない。

だがニコラス・ブーズーは「ドイツ人たちは、ヨーロッパ中央銀行によるEU加盟国すべての債務の買い戻しには一切歩み寄ることはありません」と締めくくった。

【訳注】

ⁱ 不服従のフランス（La France insoumise…直訳すれば「屈しないフランス」だが、「不服従のフランス」と訳すメディアもあり、本訳者も日本語の語感から「不服従のフランス」との訳語をあてることにした。

ⁱⁱ ソブリン債（Les dettes souveraines）…各国の政府及び政府保証機関が保証する債券（国債など）のこと。

iii オン・ネ・パ・クーシェ (On n'est pas couché) …フランス国营テレビ「フランス 2」のテレビ番組。「誰もが寝なかった」の意。